

今回の授業でたくさんのことを学びました。前回、保育実習に行った際のエピソードを記入したときは保育所保育指針の内容のことは何も考えずに記入したのですが、河合先生が紹介して下さったエピソードすべてが保育所保育指針のどこかの項目に該当していました。今までは、保育所保育指針の教科書が分厚くてあまり開くことがなかったのですが、河合先生からいただいた保育所保育指針のファイルならすぐに確認することができるので、これから保育者になってもすぐに確認できるように大切に持ち歩こうと思いました。

河合先生の授業は今回の2回の授業と学内実習の時と、沢山お世話になり、どれも河合先生の保育者像の伝わる温かな授業でした。特に今回の授業で印象深いことは、私たちが保育実習の現場で出会った理想の保育者についての話です。普段保育者として河合先生も子どもたちとかかわりを持ってらっしゃるため、私たちの体験談をみて共感していたり、素晴らしいと評価していたり、保育者を比べてみて違う観点から特徴を見つけて評価していたりしました。今回もとても深い内容でした。



今回の授業では「こんな保育者になりたいな」と思う保育者のエピソードについての授業でした。サンタクロースのエピソードがとても印象的で、子どもたちが思ったことを受け止めてあげることの大切さや年齢によってそれぞれ解釈が違ったりするのはとても可愛いと感じました。

また、河合清美先生のように保育を心から愛せるぐらいたくさん経験をしたり、子どもたちと過ごして先生のような保育者になれるようになりたいです。ありがとうございました。

今回の講話では、保育におけるねらいとそれに伴う内容は必ずしもひとつではないということを改めて学びました。過去の実習で日誌の添削をして頂いた時に、活動における自分の解釈を「ここはこのねらいでは行っていないよ」と言われてしまったことがあったのですが、その時に指針を見直していればもしかしたら自分を認めてあげることが出来たのではないかと思います。

また、「柔軟」や「臨機応変」という言葉に漠然とした理解しかなかったのですが、講話を聞く中で、多くの視点で見ることができると、固定観念に捉われすぎないことだということが分かりました。今回も実際に考え、自分の過去の経験を振り返ることが出来ました。ありがとうございました。

前回の保育実習の際の保育者の良いところの話の解説をして下さいましたが、とても理解がしやすくわかりやすかったです。文章を読んで、すごい、と感動をするだけでなく、そこから保育者の意図を汲み取り、どのように保育に関連づけることが良いか、その良さを学ぶことができました。

今回の授業で、みんなの保育実習中に会った「こんな保育者になりたい」と思う保育者をいくつか見て、私は子どもや保護者の気持ちに寄り添い、子どものために様々な工夫をする保育者になりたいと感じました。また、臨機応変の対応をするには、固定観念を外すことが大切であることを学び、保育をする時にはかたく考えずに、柔らかく考えられるようにしていきたいと感じました。

本日も貴重なお話をしてくださり、ありがとうございました。私は「固定観念を手放してみる(取り除く)」ことが柔軟な対応に繋がるというお話を聞き、本当にその通りであると感じました。「こうでなくてはいけない」という考えがあると、子どもの豊かな想像力や考えを受け入れることが出来ないと思います。また、子どもの目線に立って考えてみるのが大切であるとありましたが、私が保育所実習を行わせていただいた際に、園長先生も全く同じことをおっしゃっていました。それほど大切であるということであり、就職した初めの頃は、自分のことで精一杯かもしれませんが、こういったことを忘れずにいたいです。



今回のお話で、なぜ保育指針や教育要領が改定されたのかを初めて知りました。日本を世界で通用する国に変えるため、自己主張のできる人間を育てるための保育・教育に携われることにとっても誇りを感じました。自分を表現できる子どもたちを育てられるよう、自分自身に自信を持ち、子どもの存在自体を認められる保育士になりたいと思いました。

河合先生の講話を聴いて、子どもたちの健康や安全を確保しながら、毎日の生活や発達していく過程を見通した保育内容を構成して実施するために、保育指針は欠かせないものであることを改めて実感し、将来、年齢や発達に応じて河合先生から頂いた指針ファイルを大いに活用していこうと考えました。また、河合先生の園では、クリスマスにサンタさんが登場はしないというエピソードを聞いて、子どもの想像を大切に環境設定を知り、初めて知る方法がとても勉強になりました。年齢に応じた子どもたちの反応を聞いて、意図をもって関わることや、子どもの自発的な言動を大切にしたいと改めて思いました。

実習に行った中での出来事から保育所保育指針のどこに当たるのか解説がありました。一つの事例を保育所保育指針と重ねてみると一つだけではなくいくつかのことが重なっているため、自分が指導案を作る時に子どもにどのようなことができるようになってほしいかや伸ばしていきたいところや子どもの興味関心から指導案を作ることができるようにしたいと思いました。また、大人の都合にならないようにしていくという話があり、危ないからと判断することがあると思うのですがどこまでよしとするのか判断が難しいと思いました。

今回お話していただいたエピソード No.1 は私自身前回一番良いと思って選択したエピソードだったのですが、その際は保護者支援に着目し、保護者の方が安心できる素敵な保育者、園だと感じていました。もちろんエピソード No.1 は保護者支援の話ですが、河合先生は、「双子にとって最善であることを大切にしている」「保護者の安心は子どもの安心、安定に繋がる」と仰っていて、保育は子どもが基盤となっていることを改めて感じました。また、エピソード No.8 では「大人にとって困ることは子どもにとっての経験となる」とお話をされていて、「大人の都合の保育にならないようにする」ということは理解していても、実際どうすれば良いのか、というところの具体性を見出せていないところがあったため、今回「暑さ、寒さ、風の強さはどう楽しくできるかな」と困りごとでも機転を変えて遊びに繋がられるようにすると良いということ学び、現場に出た際に意識したいと思うと同時に、日常の中に遊びのヒント沢山転がっているのだと改めて感じました。

「やり方」の工夫と「あり方」の工夫のお話では、河合先生も仰っていた通り現場に入ったばかりでは「あり方」に目を向けるまで頭が回すのは難しい、ということは、実習を思い出してみても痛感しました。しかし、今回明確に「やり方」「あり方」についてお話していただいたことで、「あり方」の具体性を感じることができたため、現場に出た際、余裕を持って落ち着いて子どもの存在を受容し「あり方」にも目を向けられるよう意識していきたいと思えます。

河合先生の講義を受けて保育者も子どもと同じように考える力が必要だと感じました。誰かに聞いたり教えてもらったりすることはもちろん大切ですが、自分で納得をしたり保育所保育指針とアドバイスを見比べて自分なりの考えを出したり自分自身で考えてより良い保育をすることが必要だと今回学ぶことができました。いろいろな事例を取り上げて頂きそれぞれの保育者の良い点がよくわかったので、自分自身も実践できるようになったり困った時に事例集を見直してみたいと思いました。これからの保育を作っていく私たちは子どもに寄り添い子どもの成長の芽を摘まないように見守り、困った時には手を差し伸べる存在になれば良いなと思いました。

本日の授業で学んだことは、河合先生の保育園でのクリスマスの出来事です。サンタさんを登場させずプレゼントを置くことで、子どもたち自身の想像力が豊かになり、より楽しめると思いました。保育の活動の中で少し考え方を変えるだけで違う発見や子どもたちの様子も様々だと思うので自分が就職した時、保育指針を活用しながら楽しめる計画を立てていきたいと思いました。

本日の授業では、現場エピソード「1歳児 夕日」の「大人にとっては困ることも子どもにとっての経験になっている」というお話がとても印象的でした。特に、河合先生が実際に聞いたとおっしゃっていた、保育所での「なんで保護者の迎えを待つ間子どもが水たまりで遊んではいけないのか」「困るから」という大人都合で保育を進めてしまいがちだというお話が印象的でした。私はこのお話を聞いて、たしかに現場は時間に追われていることが多く、つい自分の考えが優先してしまうこともあるだろうと思いました。しかし、そこで保育者である私たちが少し視野を広くして子どもにたくさんの経験の場を与えることで、子どもの無限の可能性が広がるのだと思いました。私も子どもの無限の可能性を最大限に引き出せる保育者になりたいと思いました。

エピソードや事例を交えての貴重なお話をしてくださりありがとうございました。今回の授業を受けて、改めて保育所保育指針が大切であり、保育者にとって役立つものであるということを感じました。また、みんなの保育実習での素敵なエピソードを聞いて、自分もそんな素敵な保育者になりたいと思いました。エピソードの中にあつた保育者の対応や行動、そして言葉などは全て保育所保育指針に繋がっていることが分かりました。私は障害児入所施設に就職するため、保育所に就職するわけではないのですが、この保育所保育指針の中に書いてある内容は、子どもとの関わりにおいて活かすことができると思います。保育者として、これからも子ども一人ひとりを大切に、その子の成長を見守りながら子どもたちと一緒に毎日を楽しんでいきたいです。

様々なエピソードから参考にしたい保育者の行動や言葉かけがたくさんあり、私の目指す保育士象にむけて活かしていきたいと思いました。また、そのエピソードから保育指針のねらい、内容をどのように当てはめていくのかを学ぶことができました。河合先生の講義をとおして、保育がうまくいかなかったとき、うまくいったとき、他の職員の方の保育を真似したいと思ったときなどに、保育指針を活用できると学ぶことができました。卒業してからも、保育指針を活用していきたいと強く感じました。

今回印象に残ったお話は、「やり方の工夫」と「あり方の工夫」についてです。工夫という意味で一括りにしていましたが、確かに伝える方法を工夫することとこちらの一貫したスタンスを考慮することは全く違って、お互いに同じ目標に向かって工夫できたらいいなと思いました！

本日の授業を終えて、自分が実習中に子どもに対して行っていたことを振り返ることができました。泥遊びをしたい子どもがいるときに手が汚れるから嫌だ、雨で濡れてる芝生に裸足で飛び込むと足の裏が気持ち悪いから嫌だと実習中に一瞬思ってしまったことがありました。しかしそう思ったときに自分の気持ちを通してしまったら子どもの可能性を失ってしまったのかもしれないと思うと、考え方を変えなければならないと思いました。

河合先生に授業をしていただき、保育者のやり方、あり方を考えて実践する大切さが分かりました。私はどちらかというとあり方を考えると思います。まずはやり方もきちんと理解し、実践する方が必要だと思いました。また、大人にとって困ることも子どもにとって経験になるということの大切さが分かりました。保育者自身が子どもになってみたり、大人都合の保育にならないよう、子どもが主人公の保育をしていきたいです。保育が変わっていくことで日本の未来を変えるということから、保育者や養護、教育の質が個人だけでなく国を作っていくことにつながる重要なものだと思いました。

保育は養護と教育を一体的に行うものであり、狙いを立てる時に5領域のどれか一つだけを達成するようにするのはなく、全てが達成出来るようにしなければならないことが分かりました。私は実習の時に達成する狙いを1つに絞ってしまっていたので、保育者になったら今日お話しして頂いたことを忘れず、5領域全てが達成できるような保育内容を考えていきたいと思います。

様々な事例について河合先生から解説をして頂きました。

事例1については、「自分が良いと感じた出来事をなぜそう思ったのか保育所保育指針で逆引きすると良い」とお話しされていました。私が今まで行った実習を思い出しながら、実際に逆引きしてみました。すると、今までなんとなく素敵だなと思っていたことの理由が分かり、学びが深まりました。保育者の援助には意図があることを改めて感じました。

事例8については、「困るというのは誰が困っているのかを考えて大人都合にならないようにすることが大切」とお話しされていました。困るということは自分に余裕がないということだと思います。余裕をもって保育を行い、子どもが主体的となる保育を行って行きたいと思います。

事例34.41、29.36では「やり方の工夫とあり方の視点がそれぞれ取れ入れられている。」とお話しされていました。やり方の工夫は実習でも参考にすることがありましたが、あり方の視点については目が向かず考えたことがなかったです。河合先生も「やり方を掴んだ後、1歩先のあり方にも視野を広げていくことが大切。」と話されていたので、現場に出たからはあり方の視点にも目を向けてより良い保育ができるようにしていきたいと思います。

また、臨機応変や柔軟さについてもお話しされていました。「臨機応変を身につけるためには固定観念を取り除く。大人が嫌だ、困ると思う考えから楽しくするためにはどうすれば良いか考えていく」とお話しされていました。固定観念を取り除くというのは中々できないことだと思いますが、物事を考える時に客観的に考えることで視野が広がると思います。また、大人が嫌だと思うことについては、子どもを観察し、興味関心のあることについて知り、逆転の発想を行えるようにしたいと思います。

5回にわたるご講話をありがとうございました。どのお話もとても素敵でした。保育者になった時、河合先生のお話を思い出してパワーを頂きたいと思います。本当にありがとうございました。

本日の授業では、学生が「いいな」と思った保育士エピソードについて、保育指針やファイルを使いながら河合先生にご説明いただき、「なぜそのエピソードがいいと感じたのか」について学ぶことができました。保育の中でいいなと思うことは、保育指針の内容に当てはまり、保育の中で「これは違うな」と思うことは、保育指針の内容とはずれていることが多いことを、河合先生のお話から学ぶことができました。また、エピソードをもとに保育指針の内容を振り返ることを河合先生は「逆引き」と仰っており、私も来年の春から保育士として子どもと過ごす中で起こった出来事を「逆引き」しながら、より良い保育について考えていきたいと思いました。

河合先生がお話ししてくださった、固定観念を取り除くことや、自分が「難しい・なかなかできない」と感じることは相手もそうかもしれないという感覚を持つこと、相手の立場になって考えることなどは、私も日頃から意識をしていて、やはり保育においても、人として生きていく上でも大切なことだと改めて感じました。しかし、こういった考えを持って行動する人はあまり多くはないと感じていて、このような点で他者とのギャップに葛藤することもあります。ただこの葛藤があったことで、子どもたちがこの先、中学生・高校生、そして大人になったときにこのような考えや感覚を持っていて欲しいと願うようになり、そのためにはやはり保育者がこのような振る舞いをしなければならないと強く思いました。

本日の授業では、前回の課題で取り組んだ「こんな保育者になりたい」から、実際のエピソードを見ながら「やり方の工夫」と「在り方の工夫」について学ぶことができました。保育者にはその場で起こることに臨機応変に対応することが求められており、臨機応変に対応するためには、自分が今持っている固定観念を消して、その場で起きた出来事に「やり方の工夫」と「在り方の工夫」のどちらを求められているのかを考えて行動することができるようになりたいと思いました。

本日は貴重なお話ありがとうございました。今回の講義で、保育者はどんなときでも冷静に子どもや保護者の気持ちに寄り添いながら関わっていくことの大切さを学びました。「現場に出た時に思い通りに進むとは限らない」という言葉の通り、どんなにいろいろな場面を想定していても何かしらのトラブルや問題が起こることがあると思います。そんな時に臨機応変に対応できるような保育者になりたいと思いました。

今回の講義での河合先生の質問で自分に固定観念があったことに改めて気付きました。人によってその人の固定観念があるため、自分の当たり前が相手にとっても当たり前であると考えてしまわないように気をつけたいと思いました。自分の考えを相手に押し付けてしまうのではなく、臨機応変に対応していかなければならないと感じました。また、子どもにとっても大人たちの都合で経験できることを減らしてしまわぬように、保育者である自分が頭を柔らかくして子どもの主体性を大切にしたいと思いました。

河合先生のサンタさんの実習エピソードを聞いて、私も今回の実習で同じようなことを感じたため、とても共感しながら聞いていました。みのむしを作った時に子どもたちは自分の好きな色の折り紙を切ってはったりして個性があつてとても良いと思ったのですが、クラスの先生からは落ち葉の色の方が良かったと言われました。私は子どもたちの個性や発想を大事にしたいとすごく思いました。これから就職した時に悩むこともあると思いますが、河合先生から貰った保育所指針のファイルを常に持ち歩いて4月から頑張りたいと思います。